

『中学校統合に関する対話集会』会議録

- 1 日 時 令和4年6月30日(木)午後7時
- 2 場 所 増穂小学校 体育館
- 3 出席者 町長、教育長、秋山職務代理者、中村教育委員、大森教育委員、望月教育委員、教育総務課長、中学校統合準備室長、志村、乙黒、石部
参加者 63名
- 4 資 料 別紙のとおり
- 5 内 容
 - ①開 会 教育総務課長
 - ②教育長挨拶
 - ③町長挨拶
 - ④教育委員紹介
 - ⑤説明事項 齋藤室長
 - ・これまでの中学校統合の経過
 - ・アンケート結果の概要について

【質疑】

町民（小林区）：

私個人としては、中学校の統合ということは致し方ないことなのかなと思います。なので、特段反対とかそういったものではないですけども。一つ要望として、授業の環境、空調の設備をしっかりと作っていただきたいです。もう一つは、通学に関して自分たちの子供の頃はあの位距離は歩いたよねとかいう感じではなくて、今の状況を最大限考慮して、制服で毎日本当にこの暑い最中も通学させるのかとか、通学方法などを検討していただければと思います。

事務局：児童生徒の教育環境、特にこの暑い時期の空調の整備、またあの登下校時暑さ対策をという意見を伺いました。ありがとうございました。

町民（長澤）：

この統合は、教育委員会が発議したのか。それとも前の議員さんの中の誰かが提案したのか、あるいはPTAか、そこをはっきり教えていただきたいです。

教育長：この第2次富士川町学校適正化基本方針を掲げたのは、教育委員会で定めましたので、統合に関してその方向性を定めたのは、教育委員会であります。

町民（長澤）：

委員会が定めたということは、県とかどこからか言われたのか。それともそこにいる教育長と教育長代理者、教育委員の5人の中で、変えていかないと駄目だということで相談して、これを提案したのですか。

教育長：平成 30 年に総合教育会議があり、今後の小・中学校のあり方については検討が必要であるという中で、あり方検討会やあり方懇話会の中で総合的にまとめ、先ほどの適正化基本方針が定められました。

町民（長澤）：

富士川町だけでなく、県下の全ての町でもそういうことをしているということですか。

教育長：総合教育会議は富士川町で行われている会議ですので、町の中で話し合いを積み重ね、決められていったものが適正化基本方針です。

町民（長澤）：

富士川町の総合教育会議のメンバーは何人ですか？

教育長：基本的には町長が招集し、そして教育長、教育委員 4 名が参加して、話し合いを行うものです。

町民（長澤）：

一般町民は一切参加せず、町長が招集して、教育委員 5 人が出席し、話し合いを持ったということと理解してよろしいですか？

教育長：検討の必要性があるという話し合いが出され、そのことを受けまして、あり方検討会やあり方懇話会等のそれぞれの会議を、または学校の中でも話し合っていたりいろいろする形の中で、最終的に適正化基本方針が出されたということでもあります。

町民（長澤）：

増穂商業高校を改装するという入札案件がありましたが、それは教育委員会も承知していますね。それは、望月町長が就任する前ですか。就任後ですか？

事務局：令和 3 年 3 月の定例議会で商業跡地を候補地としましたので就任前です。

町民（長澤）：

増穂商業高校をリフォームする入札はいつ出したのか。

事務局：令和 3 年 9 月の定例議会で補正予算を計上し設計業務委託を行うことになりました。

町民（長澤）：

入札不調になったのは、設計業務ですか。工事が入札不調だったのではないかと？

事務局：設計業務です。

町民（長澤）：

誰が入札不調にしたのか。町がしたのか。入札に参加した業者が町の金額と合わずに不調になったのか。それとも町が何かの理由で不調にしたのか、教えていただきたい。

事務局：入札発注にかけ参加した業者の中で札を入れましたが、こちらの価格と合わなかったということで不調になりました。

町民（長澤）：

町側の金額は、根拠があって出した金額じゃないのか。

事務局：根拠はあります。

町民（長澤）：

でもそれが不調になったということは全員が高かったということですよ。

事務局：はい。

ほかの多くの方にもご意見を伺いたいと思いますので、終了とさせていただきます。

町民（青柳町）：

今回の統合については、ある程度町側のプランが公表された中で、町長が言う白紙と言っても、なかなか白紙に戻しきれない部分が多かったなと感じています。

私自身は、増穂中学校を使うべきだと思っております。現在バスで通っている地区は別にして、歩いてくる子にとって、増穂中学校はベストの位置なんです。もし増穂商業跡地にする場合は、鰍沢だけでなく畚米、小林、長沢地区からもバスを出さなきゃならなくなると思います。

そして、私は自転車通学は本当に反対です。子供たちの安全のために、徒歩で行ける距離を考えてほしいと思います。

身延中学校は統合して、遠い子はタクシーで登下校しているそうです。安易に自転車通学にせず、タクシーにすると町側の配慮や覚悟を感じます。全ては子供たちの喜びと幸せのために、楽しく学校に行きたくなるような学校作りに地域、保護者、町で一緒になって取り組んでほしいです。

町長：ありがとうございます。町で決めたことを報告するというやり方では皆さんの公正さは得られません。これまでのあり方検討会とか懇話会での議論を、皆さんと共有せずに進んでいくからこそ、変な憶測が生まれてしまうと思います。ですから、こういった対話集会で今までの議論もよく目を凝らしていただいて、こういう経過でこういう決定になったということ踏まえていきながら、さらにレベルの高い議論を繰り返していければいいと思っています。

町民（天神中條）：

前回の説明会のときに言っていた少人数というのは、1クラスを何人ずるに分けるのか。そうやって教員の数足りるのか。

またプールがないから、町のプールを利用すると言っていましたが、移動や着替えなどを入れて授業時間は何分になるのか。遅れたらどう指導していくつもりですか。

事務局：こちらの適正化基本方針の中で両校のいいところを併せ持つ新たな学校ということで、鯉沢中学校で実施している少人数学級は進めていくのが望ましいと教育委員会では考えています。

プールの件ですが、昨年度で表明した増穂商業高校跡地ではプールの設置まで議論に至っていません。今後の検討事項になります。

町民（天神中條）：

少人数制というのは、ちゃんと教員数っていうのは確保できるとして、そういう話を進めようとしてるんですか。

教育長：いろいろなご心配されていることについて、よくわかります。

現在、増穂小・中学校においても少人数指導も行っていますし、グループ学習や、様々な工夫をしながらやっています。

両校のいいところを目指しながら、工夫してやっていくということになると思います。それぞれの学科の先生たちが、知恵を絞りながらやっていくことになろうかと思しますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

町民（菴米）：

歴史や伝統を併せ持つ感じで、中学校を作りますということでしたが、必要な授業か、必要な授業数か、もう一度よく検討してほしいと思いました。

あと通学路に街灯がすごく少ないです。部活を早く切り上げてもいいと学校から言われたこともあります。子供は部活をやりたいのです。

そうすると街灯を増やすか、そこに合わせてバスなどの手段などの対応ができるのではないかと思います。子供の安全性にも繋がるので、その通学路という部分も含め、どう通学していくのかよく検討してください。

事務局：最初の要望としては、中学校のその教育課程について、工夫をしてもらいたい。

また登下校について、特にこれから暗くなっていく時間帯についての安全対策をという要望で承りました。

町民（天神中條）：

今の増穂小学校と増穂中学校と鯉沢小学校と、増穂商業高校跡の建物はそれぞれ、築何年ぐらいですか。

事務局：年という形でお答えすると、まずここにある増穂小学校の校舎、体育館は昭和 48 年完成です。

増穂中学校はそれよりも三、四年くらい前の昭和 45 年から 6 年にかけてとなります。増穂商業高校ですがこちら今 3 棟建物がありますが、普通教室で使っていた一番東側の校舎は昭和 38 年の建築になっております。後の真ん中と西側にあります管理棟特別教室棟、こちらにつきましては昭和 44 年から 45 年にかけてということで、ほぼ増穂中学校と同じ頃に建てられた建物になっております。

町民（天神中條）：

ということは、どの建物も耐用年数が経過している建物という理解でよろしいですか。

事務局：増穂小学校、増穂中学校、増穂商業高校についても、それぞれ耐震工事を行い、いわゆる国が示す基準値を上回っており、強度的には問題ないと考えています。

また、町では学校施設の長寿命化計画を令和元年度に策定し、今後校舎等の改築、新築について検討した計画があります。その中では一つの基準として、65 年を目途に建て替えていくとしています。現在、80 年程度まで持たせるような工法もありますが、かなり高額な工事になるようなので、様々な検討を含めながら、今後町の学校施設の検討を進めます。

町民（天神中條）：

どの建物も古くて、どこの場所に行ったとしても改修が必要だということですよ。統合した先の場所はこれまで懇話会や委員会や会議の中で議論され、増穂商業の場所がいいと決まったのだと思うので、私も商業の跡地が一番いいと思っています。

また、令和 5 年 4 月に新しい中学校になると思っていた子たちが、延期になって残念に思っている子もいます。なぜ今回延期したのかもう 1 回聞かせてください。

町 長：ありがとうございます。まさにその議論が透明化されてなく、皆さんに伝わってなく生煮えの状態に進んでいるということが延期した一つの理由です。

このまま進んでしまえば、ありきの形で押し付けて進んでしまうという危険もあったということです。まさに建物の関係です。例えば、今出ているのが、増穂商業の建物をいったん改築するが、10 年後には立て直さなければならないというプランです。ならば新しい建物を建て、50 年、60 年持たせる。そっちの方が経費的に安くなるんじゃないかという議論も、全然表に出ていません。ですからゼロベースに戻して、私が財政を預かっていますから、しっかりと町の財政の範囲内で、皆さんから預かった税金を無駄遣いしないようにする責任もあります。5 億円かけて 10 年で潰すのか、新しいのを建ててあげて 50 年もたせるのか、この議論は絶対必要だと思っています。

ですから、もう一度丁寧に皆さんと議論をすることによって、なるべく大勢の総意のもとで進めていけたらという思いが、この対話集會に結びついたきっかけです。

町民（天神中條）

その対話をしていく中で、多分その統合っていうことありきでこれから進めていくと思いますが、統合するということは、いつ決める予定ですか。

町長：まずいま建物をどうするかとか、時期をどうするかっていうの、これ統合のコンセンサス、皆さん統合の方向でいいんじゃないのっていうことを、理解していただかないとその議論までいかないと思います。統合メインのアンケートを今回とらせていただき、これをもとに、皆さんと対話をしながら統合についてどうかという、そこを主軸に置いて、今回対話集会をしたいと思っていました。次の段階でもう一度、皆さんにアンケートをとります。今度は例えば時期とか場所をどこにするかとか、ある程度具体的な内容でと思っています。もし必要であれば二巡目も対話集会でやっていきながら進めていきたいと思っています。

町民（青柳町）：

先日鯉沢小学校、中学校に保護者のいる方と話をする機会がありました。やはりクラスが1クラスっていうのはいい面もあるけど、多感なその中学生という思春期の時期に、多くの方々と触れ合って、心身ともいろんな影響を受けて、大人になる。自分を成長させるっていう時間というのは必ず必要になると。そのためには3クラス、できれば2クラスじゃなくて3クラスぐらいの中でシャッフルしながら、人間関係を広げていくことがすごく大事。

私も増穂中学校で先日ちょっと話をして、これだけのいい校舎があって、なぜ向こうに行くのか。ただ今残された土地として増穂中学校か、増穂商業。広さを考えればこの二者択一に絞っていかないと、スケジュール的に進まない。いつまでにこの対話集会を終わらせ、次に場所を選定していく。

増穂商業にした場合には、鯉沢からスクールバス。そしてあの畚米の方や遠くの方もバス、ということはお金がかかります。それでももちろん増穂商業でも当然いいんですが、まず統合する前に、1年ないし早ければ来年4月から通っていただき、その前にふれあうような企画をしながら、鯉沢の方からこちらに通っていただいて、まずスタートする。その間に、あちらの学校の方を、更地にして、潰して新しいものを作り上げる。その間にいろんなことを決めていくっていう流れの中で、お金使うときも1回で済む。全額負担しなくてもいいっていう施策がもし国の方から出てるのであれば、それに間に合うように進めるということが、当然ラッキーなので使わない手はないわけですよ。絶対使った方がいいとは思いますが、ただ、無理やり持っていくのではないそういった段階をふんで、いつまでにこれを決めるという中でゴールを決めておかないと、少数の意見を吸い取りすぎると決まるものも決まらなくなります。この対話集会が何回も何回も同じことをするのではなく、次は第2ステップ第3セットという形で、進化していくような会議であってほしいと思います。

教育長：大変本当に心のこもったご意見ありがとうございました。

いま皆さんとお話をする中で、条件のことやいろんなことが話をされていますけれども、実を言いますと、この適正化基本方針を定めた一番の基本は、富士川町の子供たちをやはり中学校っていう立場にあったときに、この思春期の子供たちをどう育ててあげたらいいのかっていうことを、町民みんなで考えてほしいということが一番でありました。

小さいときには、それぞれ家族の中で育っていく子供たちが、保育園に行き少し大きな集団になり、そして小学校ではまたそれよりも大きな集団に。もちろん、お父さんお母さんたちにいつも見守られながら育っていく。それが今度は中学校になってきたときには、子供たちが親から離れていくようなときもあるかもしれません。そのときに、子供たちは、より大きな集団の中で、自分がどういうふうに生きていいのか、誰とどういうふうにしたらいいのか、切磋琢磨しながら競い合いながら、でも仲良くしながら、支え合って思い合って、もしかしたら喧嘩もあるかもしれない、スクラムを組むかもしれない。そういう中で何か自分の思いを高めたり、様々な経験をして、今度はその思いを持って高校へと上がって、自分で道を切り開いて、そういうところになってくるんですよね。もちろん大学になれば、誰も友達のいない中へ1人で飛び込んでいくということもあるかもしれません。そしてさらに社会に出ていくとき、もう誰も助けてくれないかもしれない。その中でも自分で今よりももっと厳しい、そういう社会になってるかもしれない。その荒波の中を自分の力で泳ぎ切っていかなきゃならない、そういう力を今が、自分の身につけていく最適のときだと思うんです。そういう意味で、富士川町の子供たちを、そういう形の中で育ててあげたいということが、この適正化基本方針の一番元にあったことです。

デメリットやメリット、それから希望や、心配なこと、真剣にお答えいただいて、本当にありがとうございます。

その心配については、これから検討していく中で解決するものもあるかもしれません。ますます細やかに対応していかななくてはならないものもたくさんあります。もしかしたらできないこともあるかもしれませんが、こうやって皆さんが出してくれた意見については、一つ一つ、なんとか皆さんの意向に沿えるよう、町としても一生懸命頑張りたいと考えています。

ただ、新たな中学校については、時期や場所やあり方について、10月頃までには方向性を示していかななくてはなりません。ここまで話し合ってきた中から、新たな中学校の設置については、一旦、概ねご理解をいただいたとして、次の話し合い、つまり、いつどこにどのようなあり方で設置するかの話し合いに移らせていただきたいと思います。今後の方針を論議していくために、この場の中でどうぞ皆様の意見をたくさん出していただいて、今後のアンケート等に活かしていけるようにしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

事務局：それではここからは統合について、今までも何回かご意見等が出されましたが、時期や場所についての意見も含めて発言される方は挙手にてお願いしたいと思います。

町民（長澤）：

私は統合するのが悪いとは思っていません。ただ場所の問題で、増穂商業に持っていくと、長澤、小林、眷米、そういう人たちはスクールバスなんか出さないと、とても無理だと思います。それだったら、鯉沢の生徒をスクールバスで、増穂中へ来てもらった方がずっといいのかなと。勝手な考えですけどね。だから、統合するんだったら、この場所を中心に考えていっていただきたいなと思っています。

事務局：ご意見として承ります。他にはこの時期や場所についてのご意見と、何かございますか。挙手にてお願いいたします。小さなことでもよろしいですので今日発言されていない方で、何かございますか？はい、奥の方どうぞ。

町民（青柳町）：

いま長女が小学校5年で、一番初めにその中学校統合ということを知って、新しい気持ちで通えるなと思って楽しみにしていました。

アンケートの中で不安に思う方々はなんとなく鯉沢とか少数の方が大きいところに入っているのが不安なのかなと思うので、交流の場を設けて、そういう不安を解消していくことが大事だと思います。ぜひ小学校5、6年生ぐらいから、交流の機会を増やしてほしいと思います。

やっぱり今がチャンスだと思うので、私は新しい形で、増穂中学校からも鯉沢中学校からも、同じ場所に同じ気持ちで行くっていう、そういうフラットな意味で、私は増穂商業をちゃんと改修して、綺麗な形に変えて子供たちが通えるのがいいんじゃないかなって思います。

あと交通事故とかも不安なので、やっぱりバスで面倒見てあげる、部活が遅くなっても対応できるような対策していく必要はあると思います。

教育長：交流の場につきましては、方向性が出ましたら、各校の校長先生たちともよく相談をしながら、中学校ばかりではなくて小学校につきましても、できるだけ連携しながら交流し、教科や活動についてもできるだけ同じような形で進められるように細やかに対応できるように進めてまいりたいと考えています。

町民（大柵）：

どこで学校をという議論になっていますけど、全ての子供が納得いくような形で決めてもらえれば私はいいと思っています。

⑦閉会